

7 職員アンケート

(1) 質問 1

【事業実施前】

これまでのレクリエーション活動において、利用者一人ひとりの心身の状態に応じた援助をしてきましたか。

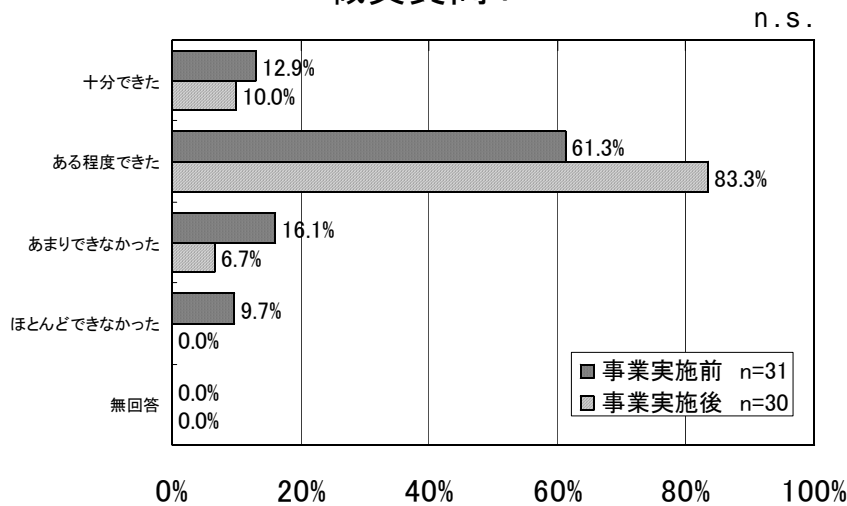
- 1 十分してきた → 質問 2 へ
- 2 ある程度してきた
- 3 あまりしてこなかった → 質問 3 へ
- 4 ほとんどしてこなかった

【事業実施後】

小グループ活動において、利用者一人ひとりの心身の状態に応じた援助ができましたか。

- 1 十分できた → 質問 2 へ
- 2 ある程度できた
- 3 あまりできなかった → 質問 3 へ
- 4 ほとんどできなかった

職員質問 1

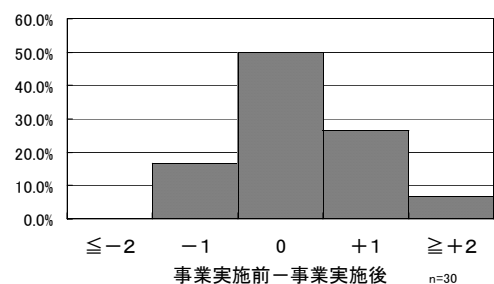


事後調査では、事前調査と比較して「十分できた」と「ある程度できた」の合計が74.2%から93.3%に増加した。

事前調査で「十分してきた」の回答が、事後調査ではすべて「ある程度できた」になったこともあり、統計的有意差は見られなかった。

これは、本事業を通じて個別援助の認識が変化したことが原因であると推察される。

職員質問1・事業実施前後の変化

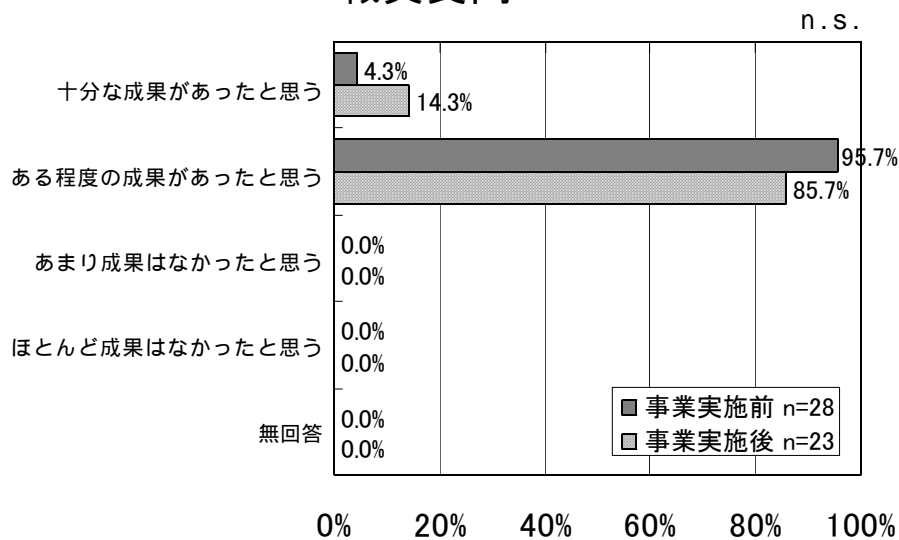


(2) 質問2

その援助(個別援助)により、利用者の心身の状態が改善又は悪化を防止する成果があったと思いますか。

- 1 十分な成果があったと思う → 質問6へ
- 2 ある程度の成果があったと思う
- 3 あまり成果はなかったと思う → 質問4へ
- 4 ほとんど成果はなかったと思う

職員質問2



事後調査では、事前調査と比較して「十分な成果があったと思う」が4.3%から14.3%に増加した。

また、事前調査、事後調査ともに「あまり効果がなかったと思う」と「ほとんど成果はなかったと思う」が0%であった。

このことから、職員は、従前から「利用者一人ひとりの心身の状態に応じた援助」によって何らかの「利用者の心身の状態が改善又は悪化を防止する成果」があると考えており、モデル事業によりそのことを確認したものと推察される。

(3) 質問3

【事業実施前】

(個別援助を)なぜしてこなかったのですか。該当する項目すべてに を付けてください。

質問6へ

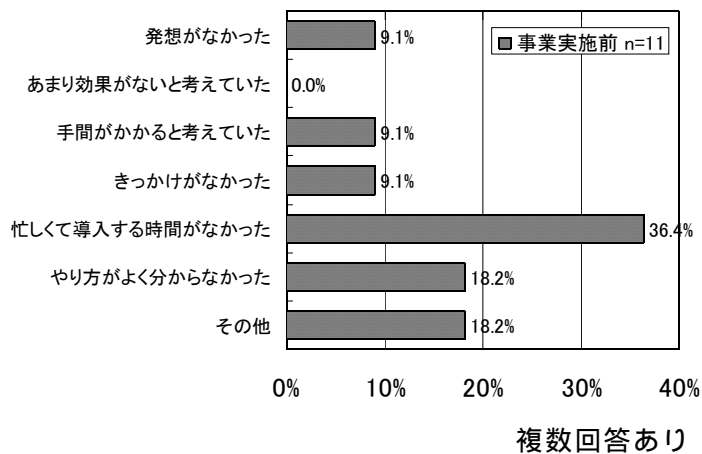
- 1 そういった援助をするという発想がなかった
- 2 そういった援助をしても、あまり効果がないと考えていた
- 3 そういった援助をするのは手間がかかると考えていた
- 4 そういった援助をしたいと考えていたが、きっかけがなかった
- 5 そういった援助をしたいと考えていたが、忙しくて導入する時間がなかった
- 6 そういった援助をしたいと考えていたが、やり方がよく分からなかった
- 7 その他(具体的に：)

【事業実施後】

(個別援助が)なぜできなかったのですか。 質問6へ

()

職員質問3



事業実施後の回答 (n=2)

個別の目標を把握しきれなかった。
看護業務があり関わりがなかった。

事前調査を見ると、「忙しくて導入する時間がなかった」が最も多かった。

(4) 質問4

【事業実施前】

(個別援助の)成果がなかったことに対してどう思いますか。

- 1 うまくいかなかったところを改善したいと思っていた
 - 2 今は成果はないが、このまま続ければ成果が出ると思っていた
 - 3 成果はないが、このまま続けざるを得ないと思っていた
 - 4 成果がないので、あきらめかけていた
 - 5 その他(具体的に:)
- 質問5へ
- 質問7へ

【事業実施後】

(個別援助の)成果がなかったことに対してどう思いますか。

- 1 うまくいかなかったところを改善したい
 - 2 今は成果はないが、このまま続ければ成果が出ると思う
 - 3 成果はないが、このまま続けざるを得ないと思う
 - 4 成果がないので、あきらめかけている
 - 5 その他(具体的に:)
- 質問5へ
- 質問6へ

事前調査、事後調査ともに回答者なし

(5) 質問5

(個別援助が)なぜうまくいかなかったと思いますか。

- 1 小グループ活動(レクリエーション)の方法が良くなかった
(具体的に:)
- 2 自分のやり方が良くなかった
(具体的に:)
- 3 その他
(具体的に:)

事前調査、事後調査ともに回答者なし